

結ぶ葉

葉と葉が重なり合い、結ばれたように見えること。ふと目をやると、葉を透過した光が美しいと感じられる、夏の季節。



本格的な夏を迎える前に訪れる、京都の梅雨の季節。天候にも左右され、湿度もグッと上がりやすく、毎年この時期は生産管理に悩まされています。こだわりの九条ねぎをお届けする想いの原点を大切に、畑に、ねぎに向き合います。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

病気に負けず、丁寧に目利した春葱たち

今年の3月に定植を行った、京都市内の畑で育った葱がメインとなりますが、6月後半になるにつれて、山間地である亀岡・美山・丹後といった京都府下全体の産地で育った春葱をお届けしていきます。汗ばむ日々が多くなり、春から夏の季節の移ろいを身体で感じながら収穫。春先まで重く、厚みのある葉だったものが、少しずつ軽やかで、すらっと細長く感じる葱たち。長雨の影響で病気になってしまったものも一部あり、農人が大切に育てた葱を、加工場で丁寧に選別したものをお届け。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

季節の変わり目、初夏を迎える農人たち

今年は暖冬の影響か、ねぎ坊主が上がってくるスピードが想定以上に早かったり、長雨の影響で例年以上にべと病やサビ病などの病気の発生があちこちでみられ、農人たちも四苦八苦しながら生産しています。

昨年の春に入社した3名の農人たちも、早いもので入社から1年が経ちました。1年目は収穫班として体力づくりもしながら、朝から夕方まで色々な畑をまわり収穫作業をしていましたが、4月頃より市内・美山・丹後などの生産現場へ入り始め、生産管理としてねぎづくりを学び始めています。

今年の春に新たに加わった3名の農人たちも2ヶ月が経ち、最初は腰が痛かったようですが、徐々に収穫にも慣れ始め、先輩社員とともに頑張ってくれています。皆、1ヶ月ちょっとの期間で肌もいい具合に焼けてきて、初夏の風物詩だなと感じています。

とある日の農人日記。

隣の畝で黙々と作業を続ける新人農人から数メートル差で始め、彼を追い越すつもりで収穫を開始。あと少し、と思いつつ進めましたが、腕を上げた彼を追い越せないまま終わりました。負けても嬉しい出来事でした。（収穫班・井上）



ねぎ坊主の花が咲かないうちに摘み取って品質を維持



最初は重く感じたねぎカゴも、ひょいっと運べるように

ことねぎだより

NO.205

2024年6月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A



こと京都は
「野菜を食べてよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。